

「夏のせい」

—初稿—

2026/2/17

〈人物表〉

谷 鳴沙 たに めいさ

(29)

しがないサラリーマン

荻原遼子 おぎわらりょうこ

(30)

鳴沙の友人

西畑誠司 にしはたせいじ

(32)

鳴沙の仕事の知り合い

藤坂祐哉 ふじさかゆうや

(32)

誠司の友人

1. 喫茶店・テラス席（昼）

燦々と照りつける太陽。
蝉、けたたましく鳴く。

鳴沙の声「夏のせいにしちゃってとか、言うけどさ」

谷鳴沙（29）、恨めしい顔で団扇をあおいでいる。

鳴沙「全部冬のせいだとも言うじゃん」

荻原遼子（30）、茹だる暑さでテキトーに相槌。

遼子「まあ、確かに？」

鳴沙「え、どうしてああいう恋愛って他責思考な訳？」

遼子「……は？」

鳴沙「自分のせいでしょ、全部」

鳴沙のアイスコーヒー、カランと涼しげな音。

2. 誠司のマンション・外観（昼）

湾岸に位置するタワーマンション。

3. 誠司のマンション・エレベーター内（昼）

鳴沙のスマホ。「ピザパーティー」のグループ。

ピザを食べている西畑誠司（32）の写真。さりげ

なく腕時計をアピール。鳴沙、笑みを漏らす。

遼子「何で会った人だっけ」

鳴沙「展示会の打ち上げ。この人は家具メーカーの営業」

遼子「ん、えっと。つまり——」

鳴沙「（説明を諦め）仕事の人」

遼子、鳴沙のスマホを覗き込む。

遼子「……そんなにいい人かね？」

鳴沙「失礼だからね」

遼子「メイちゃんさ、私今日何時にドロンスればいいの？」

鳴沙「そこは空気読んで。分かるでしょ」

遼子、やれやれという顔。

遼子「お礼は？ アフタヌーンティーとか？」

鳴沙「結果次第ね」

遼子「へいへい。私はゆうやと仲良くやりますよ」

遼子のスマホ。「ゆうや」のアイコン。夕日の画像。

4. 誠司のマンション・リビング(昼)

誠司、原木の生ハムを丁寧一枚スライス。

鳴沙 「えー、すごい。切るの上手ー」

誠司 「原木の生ハムってさ、風味が違うんだよね」

と、ワインをくるくる。

遼子、麦茶を飲みつつ、冷ややかな目線。

鳴沙 「(一口食べて) 本当だー。美味しー」

と、目を丸くする。

遼子 「あの、ゆうやさん？ ってどんな人ですか？」

誠司、鳴沙に生ハムの切り方を指南しつつ、

誠司 「あー、えっと」

鳴沙 「誠司さん、切り方分かんなくなっちゃった」

と、遼子を厄介払い。

インターホンが鳴る。

5. 誠司のマンション・玄関(昼)

藤坂祐哉(32)、玄関先で靴を脱いでいる。

誠司 「祐哉遅せえよお前」

祐哉 「ごめんごめん」

鳴沙と遼子、やって来て、

二人 「はじめましてー」

祐哉 「あ、はじめまして」

二人、祐哉を見て、思わずハッと固まる。

祐哉 「藤坂祐哉です。誠司とは大学の同級生で、今はAーの会

社をやってます」

整った顔立ちと涼しげな目元。こんがり焼けた肌か

らニコリと覗く、白く整った歯。

二人 「よろしく願いますー」

二人、そっと目を合わせる。鳴沙、バツの悪い顔。

対する遼子、ニコリと笑う。

6. 誠司のマンション・リビング(昼)

テーブルの上には、トランプの札。

鳴沙と誠司、遼子と祐哉で並んで向かい合う格好。

遼子 「はい、祐哉さんダウトー」

祐哉 「うわ遼子ちゃんまたかよー」

と、札をひっくり返す。

遼子 「祐哉さん嘘つく時、顔に出過ぎー」

二人、やたら距離が近い。

祐哉 「え、マジ？」

遼子 「鼻触るでしょ。嘘つく時、ここ」

と、祐哉の鼻を小突く。

その様子を見ている鳴沙、堪らず立ち上がった、

鳴沙 「ちょっとアイスとか買いに行かない？ (遼子に) ね？」

遼子 「え、今はいい。(祐哉に) さっきも触ってたよ？」

祐哉 「うわマジか」

鳴沙 「ねえ、行こうよ」

遼子 「何？」

と、一瞬静まる。

誠司 「ああ、じゃあ俺らで行ってこようか？」

7. 誠司のマンション・洗面所(昼)

鳴沙と遼子、黙々と鏡台の前でメイクを直している。

鳴沙 「おかしいって」

遼子 「何、計画通りじゃん」

鳴沙 「一回仕切り直そう。想定外だこれ」

遼子 「どこが？ あと私、ドロンするだけでしょ？」

鳴沙 「第一誠司さんも誠司さんだよ。こういう時普通、自分を食っちゃう友達連れてこないでしょ……」

遼子 「は？」

鳴沙 「ダブルデートの鉄則だから。自分より弱いのを連れてくるの」

遼子 「ん、あんた今さ、私に失礼なこと言った？」

鳴沙 「……とにかく、一回仕切り直して」

遼子 「おい」

鳴沙 「あのさ遼子、誠司さんとドロンしてくんない」と、手を合わせて頼み込む。

遼子 「はあ？」
鳴沙 「アフタヌーンティー奢るから」
遼子 「馬鹿、お前なんかと茶なんかシバけるか」
鳴沙 「ねえ、お願い」
遼子 「メイちゃん、あんたってほんとすごいね」
鳴沙 「祐哉さんとは会わなかったことにしてさ」
遼子 「何言ってるんだ」
鳴沙 「だからお願いだって。誠司とドロン」
遼子 「誠司ん家なんだから誠司はドロンしないだろ」
鳴沙、考えて、妙案ありと言わんばかりに、
鳴沙 「じゃ、私が祐哉さんとドロンするわ」
遼子 「おう、やってみるや」
鳴沙 「え、なんで張り合ってくるの？」
遼子 「……私の方が、強えーからだよ！」

8. 誠司のマンション・リビング（夜）

以下、点描で。

誠司、キッチンの電気窯からピザを取り出す。得意げな顔で運ぶも祐哉、両手に花。誠司、苦笑い。
× × ×
祐哉、ピザのチーズがびよんと伸び、顎に垂れる。
遼子、すかさず拭いてあげつつ、テーブルの下ではつま先で鳴沙の動きを制する。二人、睨み合う。

× × ×
鳴沙、祐哉にカップアイスをアーンするも、遼子、割って入って食べる。鳴沙、お返しと言わんばかり、祐哉のスプーンから一口食べる。祐哉、笑う。

× × ×
ベランダ。打ち上げ花火が見える。鳴沙、花火が鳴るタイミングで驚いたフリをして祐哉の腕を掴む。
誠司に捕まっている遼子、舌打ち。

9. 誠司のマンション・洗面所（夜）

鳴沙、鏡面に向かってリップを塗り直す。

最終チェックをして、ニコリと笑う。

10. 誠司のマンション・リビング（夜）

鳴沙、洗面所から出るも、リビングには誠司一人。
誠司、テーブルの片付けをしつつ、どこかよそよそしい様子。花火の音。

誠司 「あ、祐哉と遼子ちゃんさ、なんか用事あって先帰るって」

鳴沙 「……え」

誠司 「鳴沙ちゃん？ ちょっといいかな？」

11. マンション近くの遊歩道（夜）

人気のない夜道。

遼子 「祐哉さんって、意外と大胆なんですね」

と、勝ち誇った笑顔。

祐哉 「あんまりこういうの、得意じゃないんだよね」

遼子 「大丈夫ですよ。嬉しいです」

12. 誠司のマンション・リビング（夜）

鳴沙、呆然と立ち尽くしている。

誠司 「俺、鳴沙ちゃんのことさ、本気で」

鳴沙、我に返り、荷物をまとめ出す。

誠司 「好きになっちゃ——」

鳴沙、ダツと走り出す。

誠司 「……？」

13. マンション近くの遊歩道（夜）

祐哉、立ち止まって、気まずそうに、

祐哉 「頼まれちゃってさ。誠司に」

遼子 「何をですか？」

祐哉 「頃合い見て、遼子ちゃん連れて帰れて」

遼子 「ん？」

祐哉 「本当は来るのも申し訳なかったんだけど、俺、アイツの

頼み断れなくてさ」

遼子 「……ん？ ん？」

祐哉 「じゃあ。俺、彼女の迎え行かなきゃだから
と、さっと立ち去る。」

遼子、キョトンと立ち尽くす。

遼子 「ちょっと、ちょっと？ 祐哉さん？」

遼子、追いかけて駆け出すも、見失う。

14. マンション近くの曲がり角（夜）

鳴沙と遼子、出会い頭にぶつかりそうになり、転ぶ。

二人、息を整える。汗だく。

鳴沙 「……祐哉さんは？」

遼子 「帰った」

鳴沙 「え？」

遼子 「彼女のお迎えだって」

鳴沙 「……はあ？」

鳴沙、息も整わないまま自嘲して笑い、脱げたパン
プスをアスファルトに思い切り投げ付ける。

一つ息を吐いて、

鳴沙 「……暑すぎ。何なの」

と、汗を拭う。

遼子 「……夏のせいだよ。全部」

鳴沙 「……うん」

二人、笑い合う。

（おわり）